

特実審査業務システム刷新プロジェクトについて ～プロジェクトの振り返り～

2021年9月13日

特実審査業務システム刷新プロジェクト



はじめに

- ・ 特実審査業務システム刷新プロジェクトは、2017年8月に構築を開始。
- ・ 2021年7月に最終移行を完了。

→全ての構築作業を完了したため、プロジェクトの振り返りを報告します。

プロジェクト振り返り

プロジェクトの総括・振り返り

[1]総論（QCD観点）

[2]各論（その他観点）

[3]その他

プロジェクト振り返り[1]総論

[1]総論

0. はじめに

次の観点(QCD)からプロジェクトを総括

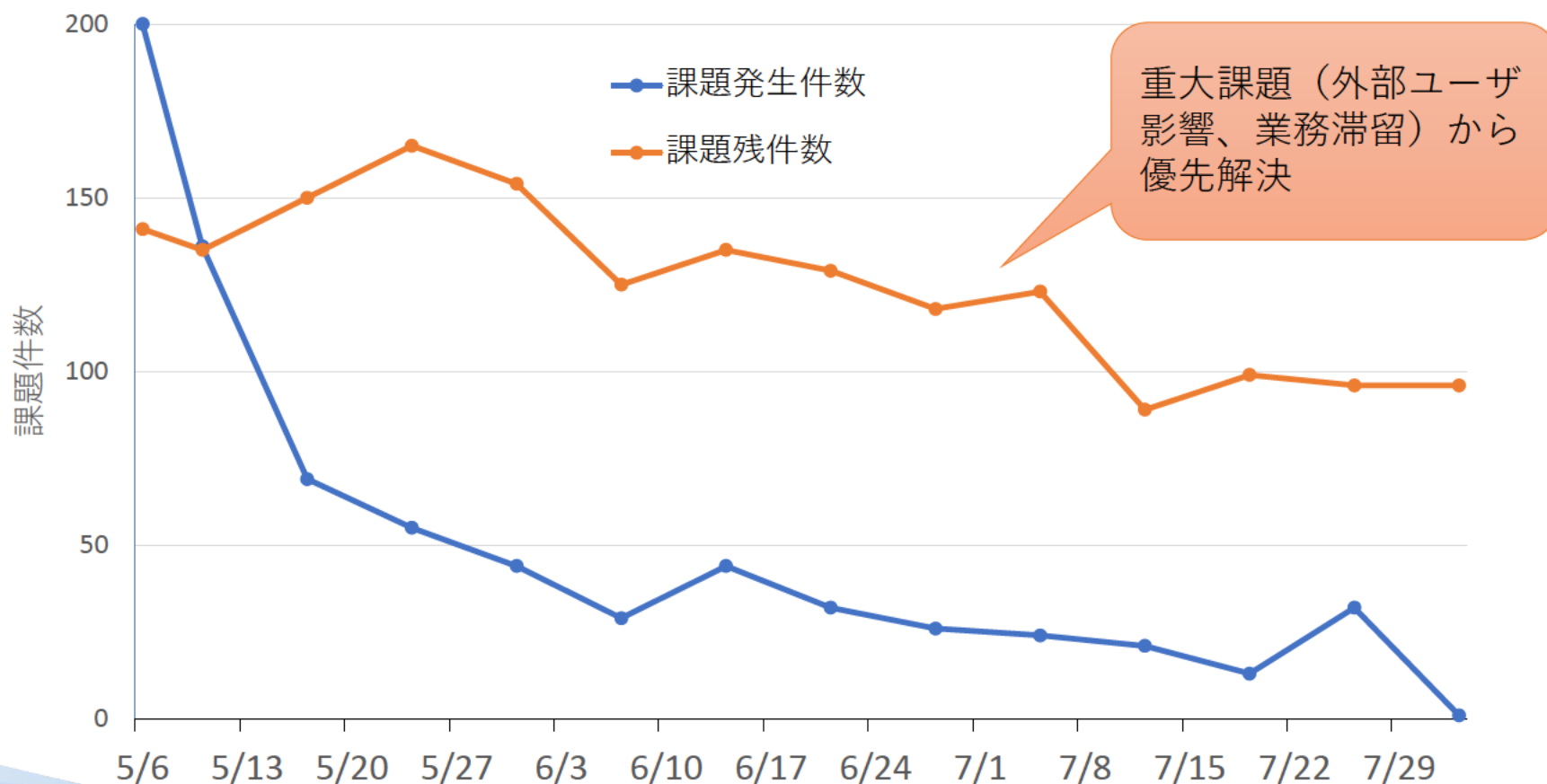
- ①品質面
- ②費用面（コスト）
- ③工期面（スケジュール）

- ✓ QCDの観点からみて、プロジェクトは完遂。
- ✓ 稼働後の課題消化が肝要。

プロジェクト振り返り[1]総論

①品質面

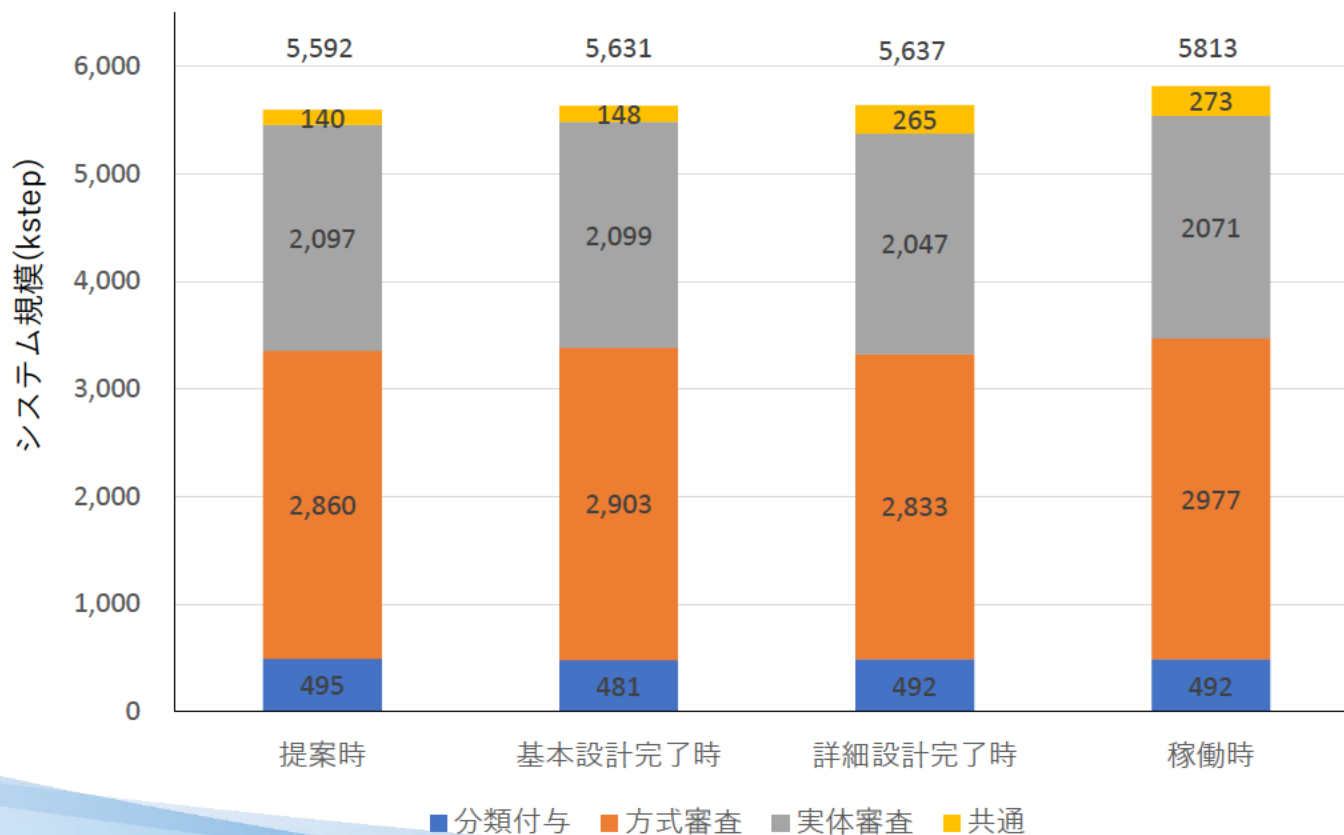
- 今年5月の稼働後、課題は発生しているものの、発生が減少傾向にあり、未解決の課題残があるものの、収束傾向。



プロジェクト振り返り[1]総論

②費用面（コスト）

- ・ 構築開始時（要件確定時）から、サブシステム単位の規模を調査
→ 工程進捗に伴う規模変化は微増
→ 稼働時も、大幅な規模増（機能追加等）は発生していない。



プロジェクト振り返り[1]総論

③工期面（スケジュール）

- ・ 構築開始時から、次の点で工程見直しを実施
 - ・ ・ (1)段階移行の見直し（3段階→2段階）
 - ・ ・ (2)詳細設計の品質向上（次工程との並行実施）
 - ・ ・ (3)コロナ対応（結合テスト工程の延長、次工程との並行実施）
 - ・ ・ (4)共通部品（アーキテクチャG）の仕様変更（工期延長）

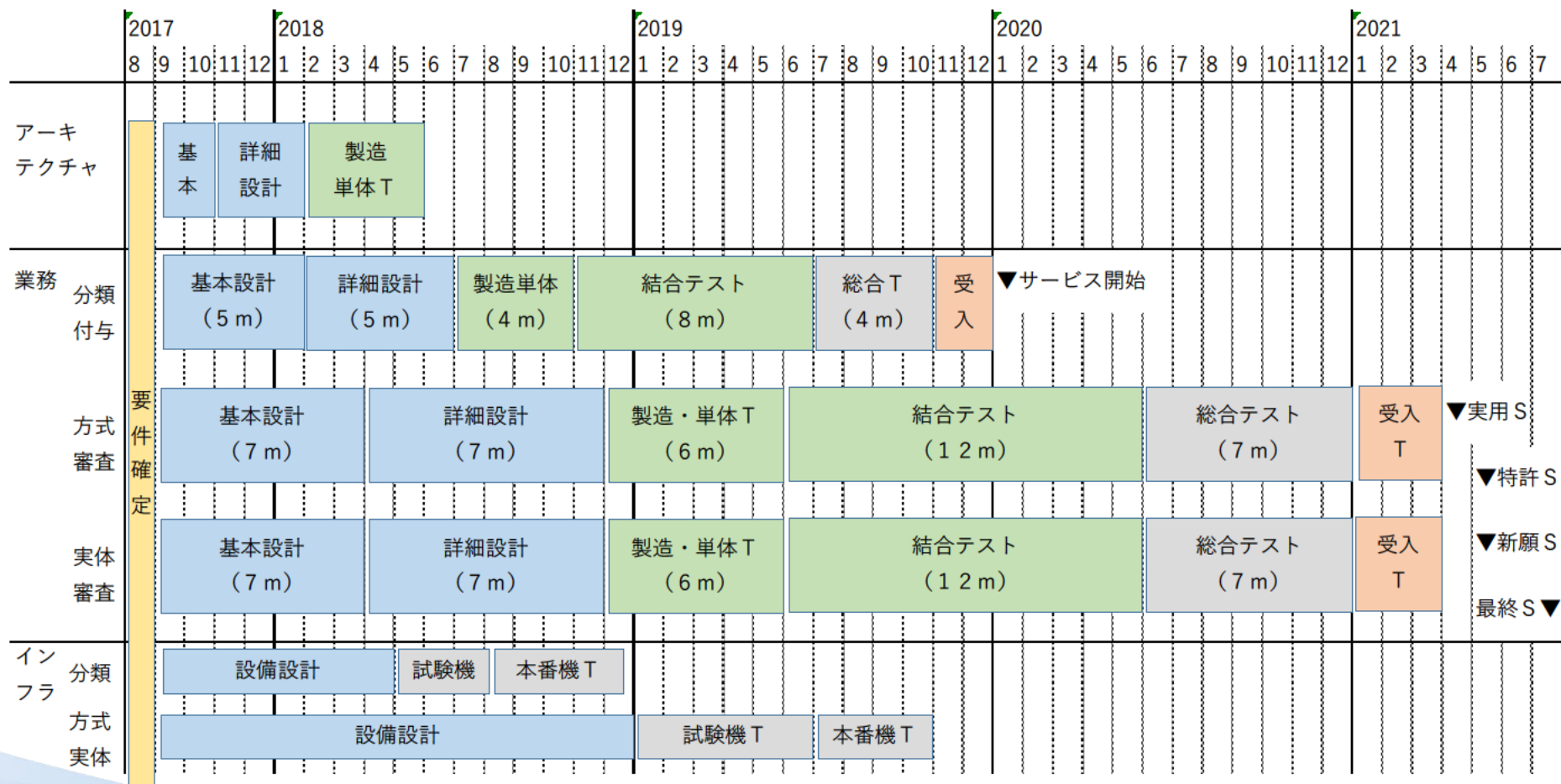
→いずれも、要求仕様や全体工期に影響が生じないよう対応。

⇒予定どおりにサービス開始。

プロジェクト振り返り[1]総論

③工期面（スケジュール）

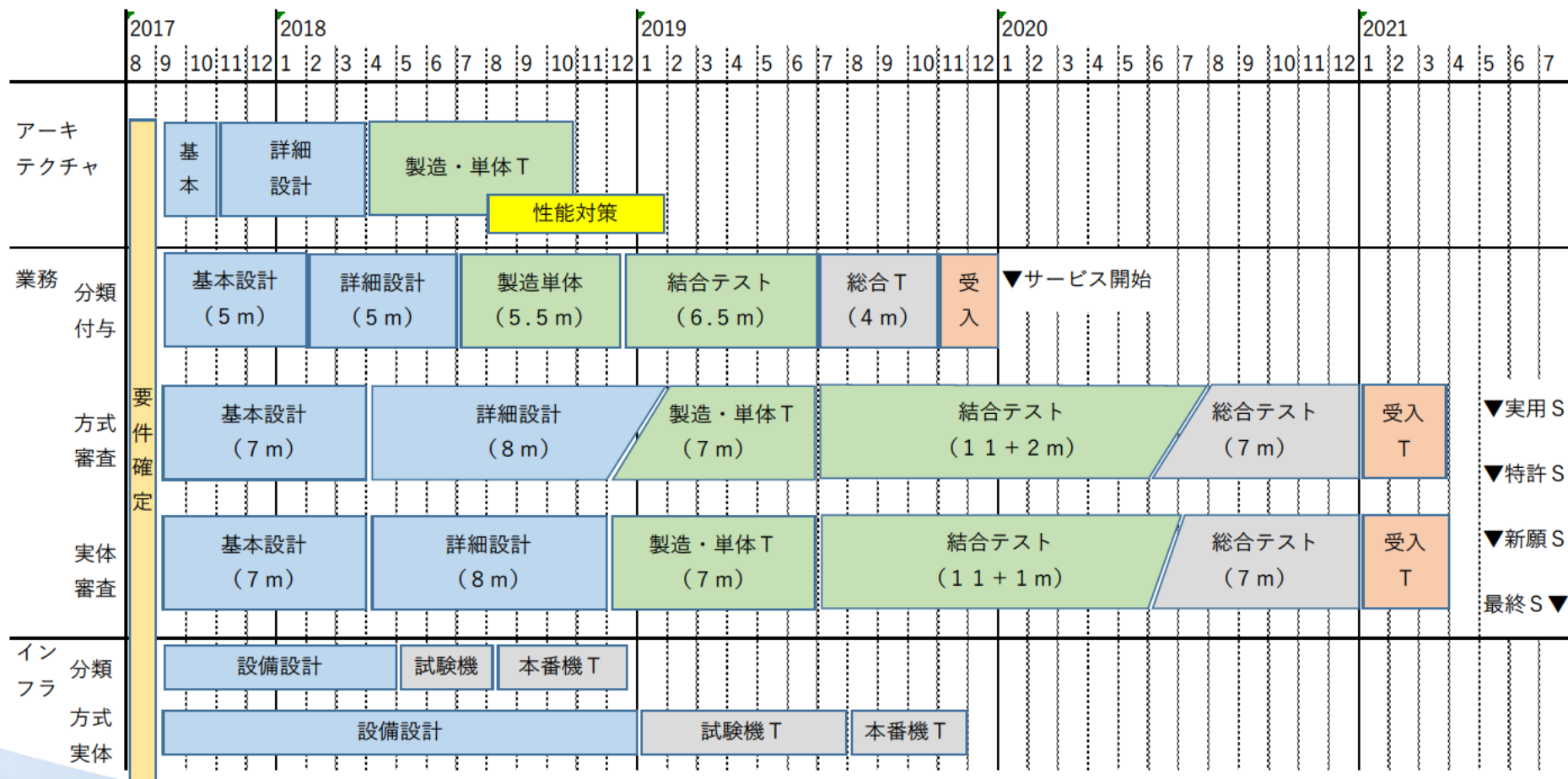
・当初



プロジェクト振り返り[1]総論

③工期面（スケジュール）

・最終



プロジェクト振り返り[1]総論

④振り返り

【品質】要件定義・設計工程が重要。業務仕様と背景（理由）の相互理解が後の工程を左右する。

⇒庁担当者とベンダ担当者の会話（レビュー）に注力。

【コスト】要件定義の機能網羅が重要。短期間に確度の高い見積もりを行うには、要件定義を解読するベンダ能力が影響。

⇒①庁担当者の業務・システム理解、②廃止機能の明示。

【工期】標準工期より短縮したため、タイト。状況に合わせた即時対応が肝要。

⇒適切な状況把握、迅速な決断。

プロジェクト振り返り[2]各論

[2]各論

①プロジェクト管理

(a)計画管理・進捗管理

- ◎成果物の分母分子管理は有効。
- ◎ 100点の計画立案は困難。70点で進めてみて修正するのが現実。
 - ・ 工程完了と次工程開始の判断（工程延期も含めて）。
 - ・ CCPM※は、定型作業が好適（上流工程や準備工程での適用には不向き）

※Critical Chain Project Management

(b)課題管理

- ◎適切な×切と重要度の見定め。
 - ・ 解決にはベンダと庁側の役割分担が重要。

プロジェクト振り返り[2]各論

②その他

(a)設計

- ◎「現行同様」は後で苦しむ。
 - ・画面モックは有用。ただし、動的仕様の確認には限界。

(b)製造・テスト

- ◎大規模・複雑なシステムは、テストの軽重の見定めが肝要。
 - ・イベントテストの目的・役割分担。

プロジェクト振り返り[2]各論

②その他

(c)アーキテクチャ標準（アーキ標準）

◎アーキ標準導入による得失（効果とデメリット）

【得】標準技術（特に通信仕様）、機能分解とメカニズム統制、段階刷新

【失】設計難易度、庁側の検査コスト

・全てのベンダ設計者がアーキ標準に則して業務仕様を設計に落とし込むのは、難しい。庁側の技術者がレビュー時に協力することが有効。

(d)業務の可視化

◎業務フロー資料の整備に伴う庁側職員の育成、設計時のベンダ育成。

プロジェクト振り返り[2]各論

③振り返り

【全体】プロジェクト責任者として注意したこと・感じたこと

- ①役割分担の明確化
- ②関係者との協力関係
- ③予見性のある判断と明確な指示
- ④メンバー間の会話

これまでのご指導に感謝いたします。